

2019 年度国立天文台研究集会開催報告書

2019 年 8 月 31 日

国立天文台長 殿

代表者	氏 名	すどう たかひろ
		須藤 貴弘
	所属・職	東京大学理学系研究科天文学専攻・博士課程 2 年
研究集会名	天文天体物理若手夏の学校	
開催期間	2019 年 7 月 30 日 ～ 2019 年 8 月 2 日	
開催場所	ロワジールホテル豊橋（愛知県 豊橋市）	
参加人数・国数 (国数は所属機関の国数)	307 名（所属機関は日本のみ）	
発表資料等 の情報	http://astro-wakate.sakura.ne.jp/ss2019/web/index.html 研究集会のプログラムや発表資料等をまとめた HP があれば URL を記載してください。 提出後に作成された場合もご連絡ください。国立天文台研究交流委員会 HP にリンクを張らせていただきます。HP ではなく、論文や冊子を作成している場合は、可能であれば一部ご提供ください。（論文の場合は DOI の情報でも可）	

研究集会の概要	<p>本研究会（夏の学校）は、(1) 若手研究者に研究発表の機会を与える (2) 若手研究者が知識を深める (3) 若手研究者の交流を促進する の3点を主な目的とした、若手（主に大学院生）のための研究会です。</p> <p>夏の学校は天文学・天体物理学に関する幅広い研究分野を対象としており、分野の垣根を越えた参加者同士の議論や交流を促すため合宿形式を取っています。参加者による発表は7つの分科会のパラレルセッション形式の口頭発表と、全分科会合同のポスター発表から成ります。また、各分科会2名ずつの講師を招待し、その分野のレビューや最先端の研究について講演していただいています。</p> <p>通常の研究発表に加え、公募形式の全体企画も開催しております。本年度は「若手のための研究補助ツール紹介」と題し、研究に有用な様々なツールの情報を全国の若手研究者で共有しました。</p> <p>さらに今年は、日本天文教育普及研究会の方をお招きしてアウトリーチに関する講演をして頂いたり、日本天文学会キャリア支援委員会様によるご支援のもと、「キャリア支援分科会」と題する特別セッションを開催し、天文学で博士号を取得後に民間企業や公的機関で働いている方をお招きし、講演や進路相談などを行っていただきました。</p>
---------	--

<p>研究集会の成果</p>	<p>今年度は一般参加者 293 名（うち 135 名が口頭発表、143 名がポスター発表）と招待講師 14 名の計 307 名が参加しました。内訳としては修士 1 年の学生が最も多く、初めての研究発表の場、また他大学の学生や研究者との交流の場を与えることができました。参加者へのアンケートでも、大多数が「全国の若手研究者と新たな交流ができた (80%)」「様々な知識を深めることができた (71.8%)」と回答しており、当初の目的を果たすことができたと考えています。</p> <p>全体企画「若手のための研究補助ツール紹介」では、博士課程の学生 5 名の講演を中心として進めました。本企画では、全国の院生に研究に役立つツールを共有することができ、特に規模の小さな研究室に所属する学生にとって非常に有益な企画となったと思います。</p> <p>また、今年新設したキャリア支援分科会においても、講師を 2 名お招きし、ためになるお話をさせていただきました。セッション後にはお二人とも参加者の進路などについての相談にのっていただきました。うち 1 名は文部科学省にお勤めの方で、講演後に博士課程の学生から科学政策についての質問も数多くあり、それについてもお答えいただきました。これに関しては本来の趣旨から外れてしまいましたが、講師の方には本音で政策についてや天文学への思いなどを語っていただき、参加者にとって非常に貴重な話を聞く機会になりました。</p> <p>また、研究議論や交流の場を提供する目的をよりよく果たせるよう、今年は試験的にコーヒーブレイクも導入しました。こちらも参加者の交流に一定の効果をあげたと考えています。</p> <p>以上の通り、今年の夏の学校は様々な新しい試みを導入し、参加者の交流や研究の進展にとどまらず、様々な点で有益な会にできたと考えています。</p>
<p>その他参考となる事項 (希望事項も含む)</p>	